

2026年5月26日

会 社 名 e B A S E株式会社
(コード番号: 3835 東証プライム市場)
本社所在地 大阪府大阪市北区豊崎五丁目4番9号
代 表 者 代表取締役社長 岩 田 貴 夫
問 合 せ 先 取 締 役 窪 田 勝 康
執行役員 C F O
電 話 番 号 (06) 6486-3955 (代表)
U R L <https://www.ebase.co.jp/>

eBASEで管理するすべてのプライベートデータが、 AIで“問いかけるだけ”の検索に対応！

～ 最先端の生成AI技術と連携・統合した「AI eBASE」を開発・リリース ～



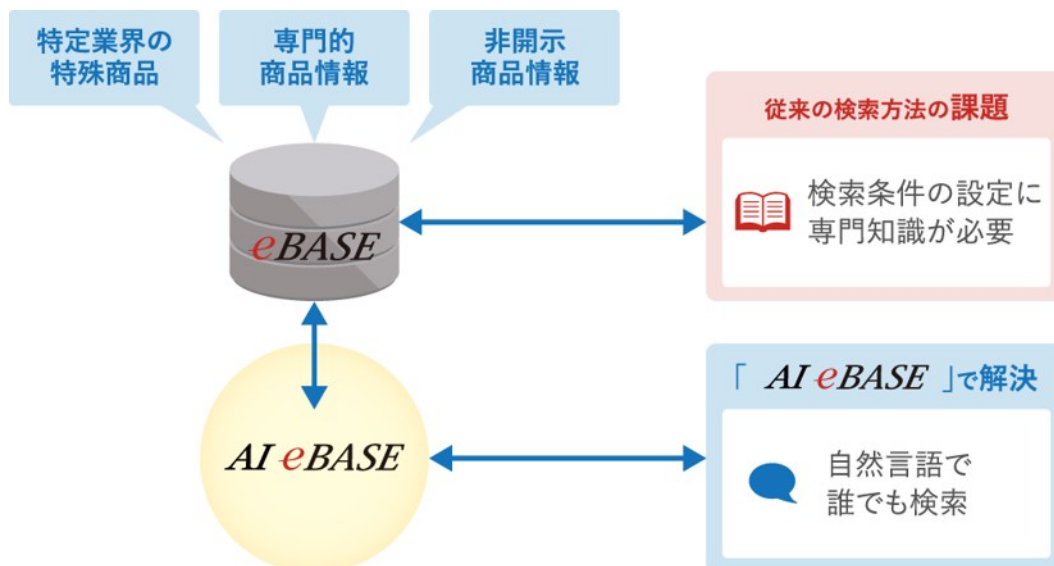
eBASE（イーベース）株式会社（本社：大阪市北区 代表取締役社長 岩田 貴夫／以下、eBASE社）は、eBASEシリーズの総ユーザー22万超、約1,000社強の導入実績を持つ商品情報統合データベース「eBASEserver」に、AI自然言語検索機能を統合した新オプション「AI eBASE」を提供いたします。最先端の生成AI技術と連携・統合することで「eBASEserver」で管理されたあらゆるプライベートデータに誰でも自然な言葉でアクセス可能になります。

➤ 企業の現場の課題

企業で運用されている「eBASEserver」には、主に食品・日雑・住宅・家電など業界を問わず、規格書・原材料情報・製品仕様といった膨大な商品データが蓄積されています。しかし、これらを活用するには、データベースの項目構造を理解し、適切な検索条件を設定するユーザー側にも専門知識が必要でした。その結果、商品情報がデータベースで一元管理されていても、現場ユーザーでは以下のような課題が生じていました。

1. **検索条件の設定に専門知識が必要**：複数条件の組み合わせや項目名の把握に専門知識が必要、結果的に部門間の情報格差も発生
2. **データ担当者への依頼・待ち時間**：問い合わせのたびに専門部門を介さなければならない
3. **大量の検索結果から見比べて選択**：検索結果が情報過多で知りたいことにたどり着けない

■ 「eBASEserver」ユーザーが得られる効果



➤ 「AI eBASE」に“問いかけるだけ”で「eBASEserver」ユーザーが得られる効果

「AI eBASE」は、既に「eBASEserver」をご利用いただいている導入企業の環境に、専用オプションとして追加導入が可能です。既存のデータベース資産やシステム構成をそのまま活用しながら、AI自然言語検索という新たな価値を享受いただけます。

1. 専門知識不要 - 誰でも自然言語でアクセス可能に

従来は専門知識を持つ担当者に依存していた商品情報検索が、自然言語による直感的な操作が可能になります。営業、品質管理、商品企画、経営層など、あらゆる部門のスタッフが必要な商品情報に素早くアクセスできます。

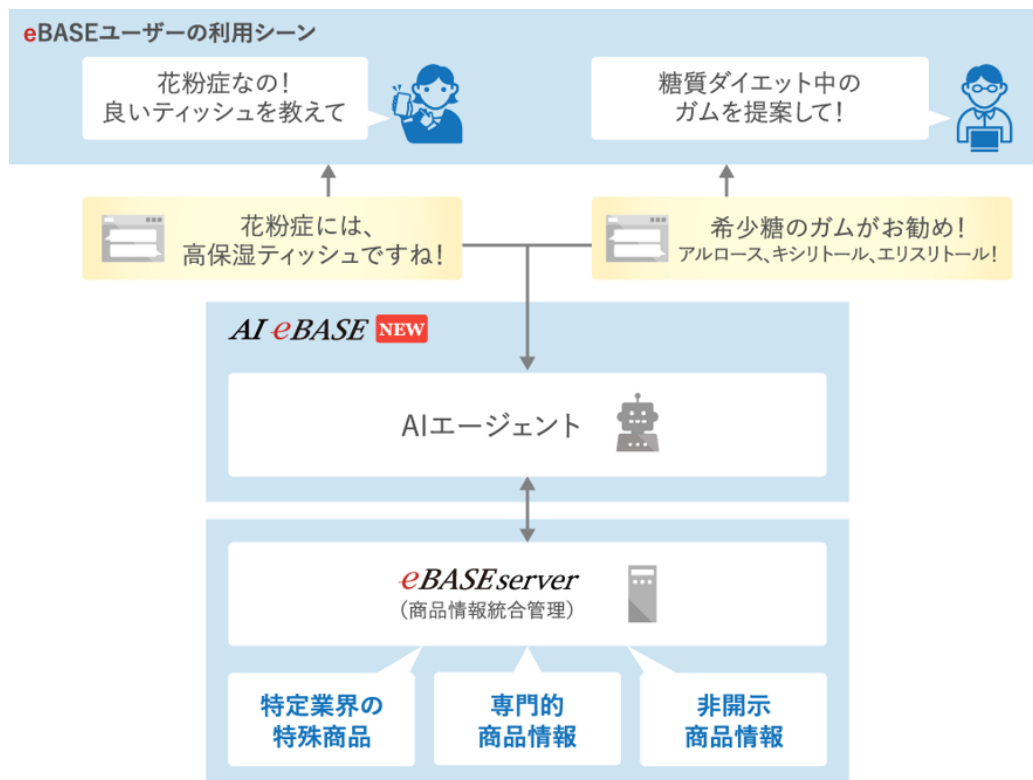
2. データ担当者を介さずに利用 - その場でリアルタイムに回答

データ管理担当部門や担当者を介さずに、エンドユーザーが直接「AI eBASE」を利用することで、最先端のAI技術で開発された「AIエージェント」と「MCPサーバー」が、汎用の「大規模言語モデル (LLM: large language model)」とプライベートデータを保持する「eBASEserver」をリアルタイムで連携することで即時に欲しい情報にアクセスできます。

3. AIの要件理解とプライベートデータに基づく信頼性の高い最適な回答

自社の「eBASEserver」で管理しているプライベートな商品情報データベースを回答基盤にできるために、AIは正しく要件を理解し、膨大な商品情報から最適な商品や商品情報を提案します。一般的な汎用AIとは一線を画す高い回答精度を実現します。

■ 「eBASEserver」ユーザーの「こんな場面」を解決します



「AI eBASE」は「eBASEserver」導入企業の「現場の困りごと」を最先端の生成AI技術と連携・統合し解決します。

➤ 「AI eBASE」が実現する解決アプローチ

「AI eBASE」は、3つのアプローチでこれらの課題を解決します。

- 自然言語インターフェース - データベースの専門知識がなくても、自然言語で質問するだけで回答を得られる
- AIエージェントによる自律検索
ユーザーの意図を理解し、「eBASEserver」の適切なAPI呼び出しを自動実行
- 正規化データベースとの連携
eBASEが20年以上蓄積してきた信頼性の高いデータを回答基盤として活用

➤ 「AI eBASE」は、こんな業務シーンで活躍します

<小売向け>

1. バイヤー／MD担当者：商品選定を自然語で

バイヤーや商品部のMD担当者は、仕入れ商品の選定や取扱商品の整合性確認のたびに、膨大な商品データの中から条件に合う商品を探す必要があります。

- ケーススタディ：困っていたこと
「国産原材料で糖質控えめのスナック菓子」のような複合条件での商品選定は、専門担当者に依頼するか、自分でシステムを操作するしかなく、即断できない場面が多かった。
- 「AI eBASE」なら
「eB-AISearch/AI eBASE」に「国産原材料で糖質控えめのスナック菓子は？」と質問すると、AIが「eBASEserver」の商品データベースを検索して自然語で回答。回答からそのまま商品一覧・詳細画面へ展開でき、「その中でアレルギー不使用のものは？」と続けて絞り込むことも可能です。

2. 商品部/マスタ管理担当者：商品情報の整合性確認

食品表示法や業界ルールの改正に伴い、アレルギー情報や原材料表記の更新・確認作業が定期的に発生します。

- ケーススタディ：困っていたこと

「アレルギー情報が未入力の商品が何件あるか」「特定原材料を含む商品をすべて洗い出したい」といった確認作業は、複雑な検索条件の設定が必要で、担当者に依頼する手間がかかっていた。

- 「AI eBASE」なら

「アレルギー情報が未入力の商品を一覧で出して」と質問するだけで、AIが自動的に「eBASEserver」のデータベースを検索して対象商品をリストアップ。詳細情報を確認しながら、更新作業を効率的に進めることができます。

3. 小売が提供する消費者向けアプリ（e食住なび for DX）の場合

消費者が小売の店舗やECサイト等で購買する時の商品検索において、適切なカテゴリやキーワード、及び制約条件等を指定して検索する必要があります。特に家族にアレルギー症状や生活習慣病の患者がいる場合には膨大な商品群からの適切な選択が困難になります。

- ケーススタディ：困っていたこと

消費者が「アレルギーが含まれていない商品を探したい」「国産原材料の食品だけを見たい」と思っても、膨大な商品一覧から条件に合う商品を絞り込むには、パッケージを一つずつ確認するしかなく手間がかかる。

- 「AI eBASE」なら

eBASE社が開発し小売企業を介して提供する消費者向けスマホアプリ「e食住なび for DX」上で自然言語による商品検索も可能になります。「卵・乳不使用のお菓子は？」「国産小麦のパンを探して」といった言葉で検索するだけで、「食材ebisu」（約67万件）の正確な商品情報から該当商品を即座に絞り込み表示。専門知識なしに、誰でも条件に合った商品を見つけられます。

「e食住なび」での利用イメージ

以下は、消費者向けアプリ「e食住なび」上で「AI eBASE」による自然言語検索を利用した場合の画面イメージです。

■AIが条件に合った商品を回答

グルテンフリーで筋トレに適した冷凍のお弁当のおかずは

e食住なび食品検索

検索が完了しました



日本生活協同組合連合会
骨取りさけの塩焼き



日本生活協同組合連合会
北海道産骨取り秋鮭の塩焼



ニチレイフーズ
切れてる！サラダチキン

小麦を除外したうえで、たんぱく質が高め・脂質が低めの冷凍食品から、お弁当のおかずに使やすいものを10点選びました。見やすいように2つの表に分けてご紹介します。

1～5点目

商品データ	骨取りさけの塩焼き	北海道産骨取り秋鮭の塩焼	切れてる！サラダチキン	華味鳥炙りチキン（ゆ）
内容量	56グラム（4切入）	68グラム（4切入）	110g	200g（不定賞）
カロリー	72 kcal	80 kcal	130.9 kcal	290 kcal
たんぱく質	14.8 g	16.4 g	27.83 g	49 g
脂質	1.6 g	1.6 g	1.54 g	3.8 g
炭水化物	0 g	0 g	1.43 g	14.8 g
食塩相当量	1.2 g	0.8 g	0.66 g	—
たんぱく質（100gあたり）	26.43 g	24.12 g	25.3 g	24.5 g
脂質（100gあたり）	2.86 g	2.35 g	1.4 g	1.9 g
お弁当向きポイント	自然解凍可で入れやすい	自然解凍もできる	スライス済みでそのまま使いやすい	鶏むね肉で高たんぱく

※ 上記の栄養成分は1製品あたりの値です（内容量・たんぱく質（100gあたり）・脂質（100gあたり）を除く）

6～10点目

商品データ	（便利なバラバラ） 国産…	（便利なバラバラ） 北海道…	asc認証下ごしらえ済み …	TVM:
内容量	60グラム	60グラム	200g	180g
カロリー	57 kcal	60 kcal	194 kcal	171 kcal
たんぱく質	13.7 g	14.4 g	44.6 g	39.06 g
脂質	0.2 g	0.36 g	1.8 g	0.54 g
炭水化物	0 g	0 g	0 g	0.18 g
食塩相当量	0.1 g	0.12 g	0.6 g	0.9 g
たんぱく質（100gあたり）	22.83 g	24 g	22.3 g	21.7 g

脂質 (100gあたり)	0.33 g	0.6 g	0.9 g	0.3 g
お弁当向き ポイント	バラ凍結で少量使いしやすい	味付けなしで使いやすい	下ごしらえ済みで手早く使える	たんぱく

※ 上記の栄養成分は1製品あたりの値です（内容量・たんぱく質（100gあたり）・脂質（100gあたり）を除く）

必要でしたら次に、

1. もっと「鶏肉中心」で選ぶ
2. もっと「魚中心」で選ぶ
3. さらに「高たんぱく順」に並べる
のように絞ってお出しできます。



この中で100gあたりのタンパク質が高いもの順に教えて

e食住なび食品検索

🔍 検索

前の一覧にある「たんぱく質（100gあたり）」で高い順に並べると、次の通りです。

順位	商品名	たんぱく質（100gあたり）
1	骨取りさけの塩焼き	26.43 g
2	切れてる！サラダチキン	25.3 g
3	華味鳥 炙りチキン（ゆず風味）	24.5 g
4	北海道産骨取り秋鮭の塩焼き	24.12 g
5	（便利なバラバラ）北海道産白身魚のほくし身	24 g
6	北海道さけスモークサーモン	24 g
7	かじき便利カット	22.9 g
8	（便利なバラバラ）国産白身魚のほくし身	22.83 g
9	asc認証下ごしらえ済み すぐ調理できる 無頭殻付きえび（-18℃）	22.3 g
10	TVMSC認証有頭えびオーストラリア産16/20(-5℃)	21.7 g

必要でしたら次に、

1. たんぱく質が高い順のまま「筋トレ向きベスト3」
2. 脂質が低い順もあわせて比較
3. お弁当に入れやすいものだけに絞る
のどれかで続けられます。



入力された自然言語をAIが解釈し、アレルギー条件（小麦不使用）・栄養成分条件（筋トレ向けの高たんぱく・低脂質）・商品カテゴリ条件（冷凍／お弁当のおかず）に構造化したうえで、「e食住なび」のデータベースへのクエリに変換して検索。条件を満たす市販商品を網羅的かつ正確に抽出し、自然語で回答します。eBASEで管理されたデータを参照することで、汎用AIにありがちな「そ

れらしい商品名のハルシネーション（実在しない商品の捏造）」や「栄養成分等の実数値の捏造」を排除し、正確な情報とともに商品を提示します。

■商品詳細を確認

[詳細情報](#)

冷凍調理の

全ての商品	同じメーカー	類似品
-------	--------	-----





[共有する](#)

ニチレイ

切れてる! サラダチキン / 250g

さらにしっかりと仕上げ、食べやすくなりました。素材の味を活かした味付け
に仕上げていますので、料理素材としてもそのままでもお召し上がりいただけます。より使いやすい規格に変更しました。

メーカー名：ニチレイフーズ
商品サイズ：幅/長辺:250mm×奥行/短辺:190mm×高さ:35mm

アレルギー物質表示 (29品目中)

アーモンド? 鶏肉 ピスタチオ? マカダミアナッツ?

[29品目すべて表示](#)

アレルギー情報・原材料・栄養成分などのより詳細な情報も確認できます。

<メーカー向け>

1. 開発・設計部門：技術情報の属人化を解消

過去の設計資料や実験データが複数のシステムや紙のPDFに分散し、必要な情報を探し出すだけで時間がかかる—メーカーの設計現場では、こうした非効率が発生的に発生しています。

- **ケーススタディ：困っていたこと**
過去の図面、実験データ、不具合報告書が異なるシステムに散在し、横断検索に手間がかかる。結局見つからずゼロから設計し直すことも少なくない。
- **「AI eBASE」なら**
「eB-AISearch/AI eBASE」に「耐熱150度以上・防水IP67対応のセンサーの過去試験データは？」と入力すると、AIがeBASEに蓄積された設計資料・実験データを検索して自然語で回答。そのまま「eBASEweb」で関連ドキュメントの一覧・詳細を確認でき、ベテランの退職に伴う技術継承リスクの軽減にもつながります。

2. 営業・カスタマーサポート：専門部署を介さず即座に回答

顧客から技術的な問い合わせを受けた際、従来は専門部署への確認が必要で、回答まで数日かかるケースも珍しくありませんでした。

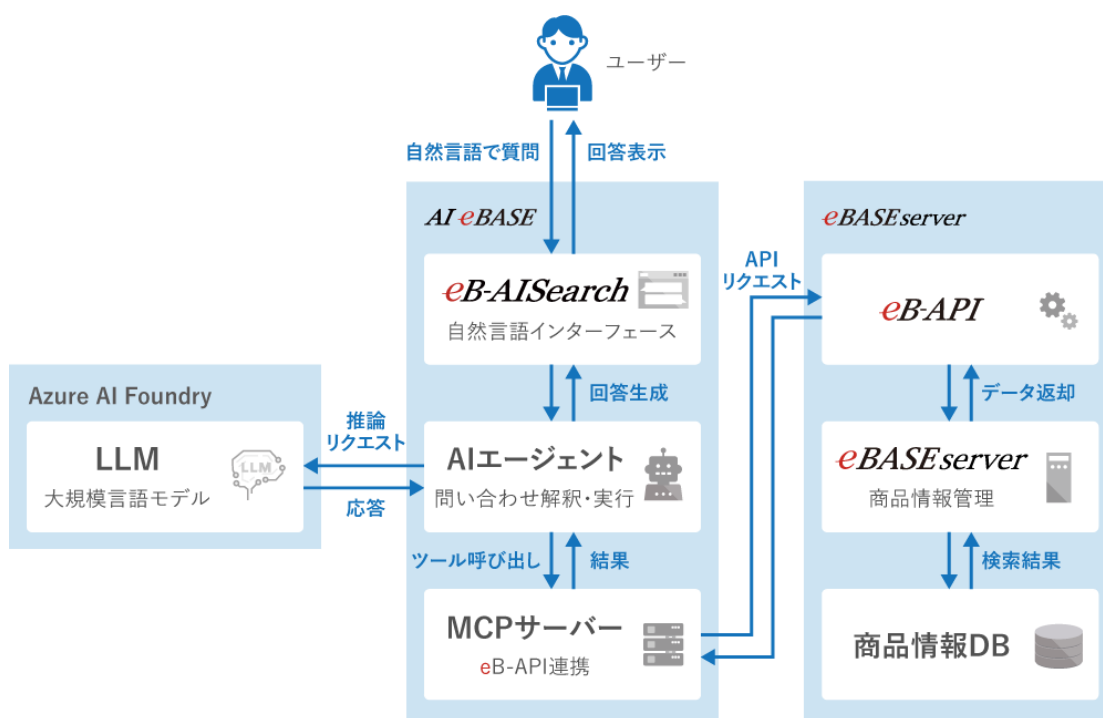
- **ケーススタディ：困っていたこと**
技術資料は専門的すぎて営業職では即答できず、技術部門への問い合わせは順番待ちになりがち。回答が遅れて商機を逃すことも。
- **「AI eBASE」なら**
「eB-AISearch/AI eBASE」に「耐熱200度以上・防塵対応の製品はある？」と質問すると、AIがeBASEに蓄積された製品仕様・特注対応実績を検索して即座に回答。「eBASEweb」で該当製品の仕様一覧・詳細スペックを確認しながら、当日中に顧客へ正確な情報を提供できます。

3. 生産管理・資材調達：代替品を素早く特定

部品の延番や供給不足が発生した際、影響範囲の把握や代替品の選定は、担当者の経験と記憶に頼りがちでした。

- ケーススタディ：困っていたこと
膨大なBOM（部品構成表）の中から互換性のある代替品を探すのが困難で、調査に多くの時間を要していた。
- 「AI eBASE」なら
「eB-AISearch/AI eBASE」に「この半導体の代替で、ピンアサインと電圧が一致するものは社内在庫にある？」と質問すると、AIがeBASEに登録された部品情報・BOMデータを検索して候補を回答。「eBASEweb」で候補部品の一覧から詳細スペックまで確認でき、属人的な対応をシステムによる標準化へと移行できます。

▶ どうやって実現しているのか：最先端 AI技術との統合 「eBASEserver」と「AI eBASE」の連携構成図



「AI eBASE」は、以下の最先端技術を組み合わせることで、自然言語による高精度な商品情報検索を実現します。

- AIエージェントによる自律的なデータ検索
ユーザーの問い合わせをAIが解釈し、「どのデータを、どのような条件で検索するか」を自動的に判断・実行します。単純なキーワードマッチングではなく、意図を理解したうえでデータベースを操作するため、複雑な条件の問い合わせにも対応できます。
- MCP (Model Context Protocol) による標準連携
AI業界が推進するオープン標準プロトコル「MCP」を通じて「eBASEserver」の「eB-API」と接続します。特定のLLMベンダーに依存しないアーキテクチャにより、AI技術の進化に合わせた柔軟なアップデートが可能です。
- Azure AI Foundry による企業グレードのLLM基盤
LLM推論にはMicrosoft Azure AI Foundryを採用し、エンタープライズレベルのセキュリティ・SLA・コンプライアンス要件を満たします。

➤ **回答精度の決め手：eBASEが積み上げてきたプライベート(クローズド)データ**

汎用生成AI（ChatGPT, Gemini, Claude等）に商品情報を質問しても、インターネット上の断片的な情報から回答を生成するため、事実と異なる情報（ハルシネーション）が混入するリスクがあります。

「AI eBASE」が他のAI検索と一線を画す本質的な理由は、技術そのものではなく、エンドユーザーが「eBASEserver」で管理しているクローズドなプライベート商品情報データベースにあります。

汎用 AI の課題	「AI eBASE」の解決策
ネット上の不確かな情報を参照	導入企業の 自社管理データベース を直接参照（非公開・正規化済み）
非公開データにアクセス不可	取引先から預かった 非公開の規格書・原材料情報 にも安全にアクセス
情報が古い場合がある	「eBASEserver」の 最新データ にリアルタイム接続

■ 「AI eBASE」が参照するデータについて

「AI eBASE」が検索対象とするデータは、自社の「eBASEserver」で管理する商品情報・規格書（企業導入されたeBASEのプライベート(クローズド)管理データ）です。自社データにAI検索で直接アクセスできます。

AIはあくまで「情報を引き出す技術」です。回答の質を最終的に決めるのは、その裏側にあるデータの質と量。エンドユーザーが「eBASEserver」で積み上げてきた膨大で貴重な商品情報という「デジタル資産」こそが、「AI eBASE」の核心です。

➤ **「AI eBASE」のビジョン**

「AI eBASE」は、単なるAI検索機能ではありません。eBASE社が20年以上にわたり蓄積してきた商品情報データベースという「デジタル資産」を、AI技術によって解放し、あらゆるビジネスシーンで活用できるプラットフォームへと進化させる取り組みです。

eBASE社は、商品情報データベースのパイオニアとして培ってきた知見とAI技術を融合させ、「商品情報へのアクセス」から「商品情報を活用したビジネス価値創造」へと、新たなステージに挑戦します。開発においてはAnthropicの「Claude Code」を取り入れており、eBASE社全体で最先端のAI技術の活用を進めていきます。

➤ **今後の予定**

1. **「eBASEserver」導入済み企業への優先展開**

既存「eBASEserver」導入企業を対象に、「AI eBASE」をオプション機能として順次提供していきます。

2. **食品以外の分野への適用拡大**

「日雑ebisu」、「OTCebisu」、「家電ebisu」、「工具ebisu」、「住宅ebisu」などの商品データプール「商材ebisuシリーズ」対象業界への展開

3. **様々なドキュメント管理分野への展開**

マニュアル管理など、商品データベース以外の領域へのAI検索展開

➤ **販売価格**

「AI eBASE」は、既存の「eBASEserver」にオプションとして追加導入いただけます。AI自然言語検索エンジン「eB-AIsearch」は、「eBASEserver」とは別筐体のLinux上で稼働します。また、月額料のAI利用料（従量課金）が別途発生します。

■ 「eB-AIsearch」ソフトウェア価格（コア数連動型）

ベース単価を125万円/コアとし、稼働マシンのコア数に応じたライセンス体系です。販売は最小4コアからとし、以降は2コア単位での拡張が可能です。

導入パターン例

導入パターン	コア数	価格（税別）	想定利用規模	推奨メモリ
小規模型 （最小販売単位）	4 コア	500 万円	部門内利用： 同時接続 10 名程度まで	8 GB
中規模型	8 コア	1,000 万円	全社利用： 同時接続 30 名程度まで	16GB
大規模型	16 コア	2,000 万円	社外公開利用： 同時接続 30 名以上	32GB

※「月額AI利用料」（AI従量課金）は別途発生します。

※年間ライセンス&サポート費はパッケージソフトウェア費の20%（初年度も必要）。

詳しくは営業窓口までお問い合わせください。

➤ 販売目標

既存「eBASEserver」導入企業を中心に展開

➤ eBASE株式会社の概要

eBASE株式会社は商品情報に関わるデータベースソリューションパッケージソフトであるeBASEjr、eBASEstandard、SmalleBASEserver、eBASEserver等の幅広いラインナップにより、生産者・原材料メーカー、加工メーカー、卸会社、小売会社の業態や規模にフィットしたソリューションを提供することが可能な商品情報交換データベース分野のエキスパート企業です。eBASE社の各種パッケージソフトウェアはシームレスに連携やアップグレードが可能です。商品情報に関わる様々な業務アプリケーション（「MDM eBASE」、「PDM eBASE」、「FOODS / GOODS eBASE」等）との連携を高いコストパフォーマンスで実現します。

eBASE社は様々な業界（食品、日雑、医薬、文具、家電、工具、環境、住宅、アパレル等）で培った商品情報交換ソリューションノウハウを「全体最適」の視点で継続提供いたします。又、パッケージソフトウェアビジネスに加えて、その商品情報コンテンツビジネスとして商品データプールサービス「商材ebisu（食材 / 外食 / 日雑 / 住宅 / 家電 / 文具 / 工具（小売版） / 工具（卸版）等）」や「マスタデータebisu」を提供しています。更にこれら「商材ebisu」データを活用した消費者向けアプリビジネスとして、あらゆる商品カテゴリを統合したライフスタイルアプリ「e食住なび」、「e食住カタログ」、「e食住暮らし」、「e食住ビジュアルレシート」、及び住まいの設備や家電の情報をまとめて管理できるアプリ「e住なび」、等、幅広く小売企業を経由して一般消費者ユーザーに提供しています。

➤ 本件に関するお問い合わせ先

eBASE株式会社

TEL : 06-6486-3955 FAX: 06-6486-3956

E-mail : info@ebase.co.jp

URL : <https://www.ebase.co.jp/>